

教科(科目)	家庭 (家庭総合)	単位数	2単位	学年(コース)	1年次 必履修
使用教科書	第一学習社 『高等学校 家庭総合 持続可能な未来をつくる』				
副教材等	第一学習社 『最新家庭 生活ハンドブック 資料&成分表』				

1 学習目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。

2 指導の重点

生活を主体的に営んでいく力を身につけるために、

- ①自ら考え、発言（記述）する機会を多く設け、思考力や表現力を養うことを目指します。
- ②実践的・体験的な活動を通して、積極的に他者とのコミュニケーションを図ったり、他者と協働して課題を解決したりする態度を育てます。
- ③生活の課題を見つけ、解決するために必要な知識や能力の獲得を目指します。

3 評価の観点の趣旨

a 知識・技能	b 思考・判断・表現	c 主体的に学習に取り組む態度
人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭・衣食住・消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

4 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	a 知識・技能	b 思考・判断・表現	c 主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ワークシートをはじめとした提出物の内容（レポートやワークシートなど） ・定期考査 ・実習への取り組み ・実技試験 などから、評価します。	以上のことを踏まえ、 ・定期考査 ・授業への取り組み（授業中の発言、発表や討論への取り組みなど） ・提出物の内容（レポートやワークシートなど） などから、評価します。	以上のことを踏まえ、 ・授業への取り組み（授業中の発言、発表や討論への取り組みなど） ・提出物の内容（レポートやワークシートなど） ・実習への取り組み などから、評価します。
	各観点「A:十分満足できる」、「B:おおむね満足できる」、「C:努力を要する」で評価します。		

5 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 5 6	1. これからの生き方と家族	ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> ・一生における現在の自分を見つめ、青年期の特徴とそのあり方を考える。 ・職業選択など自分の将来の生活設計を考える。 ・男女平等やワークライフバランスについて理解を深める。 ・家族の役割とあり方について考え、成人年齢の引き下げなど家族に関する基礎的な法律の知識を理解する。 	18	授業の取り組み (行動の様子) 発表の様子 (行動の確認) ワークシート (記述の確認) a, b, c 定期考査 (解答の確認) a, b
8 9 10	2. 経済生活をつくる	視聴覚教材 Caution! ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> ・家計の管理について理解する。 ・種々の経済現象に対して、主体的に判断し行動する態度を身につける。 ・契約や消費者問題に対応するする能力を身につける。 ・消費者の権利や責任について理解する。 ・持続可能な社会の実現のためにすべきことを理解する。 ・消費者市民社会をめざし、生活意識や様式を見直し、環境に調和したライフスタイルを目指す。 	18	授業の取り組み (行動の様子) 発表の様子 (行動の確認) ワークシート (記述の確認) a, b, c 定期考査 (解答の確認) a, b
	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ	ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活の改善を目指した計画をレポートにまとめ、発表する。 	2	提出物 (完成度の確認、記述の確認) 発表の様子 (行動の確認) a, b, c
11 12 1 2 3	3. 食生活をつくる	食品標本 食品の包装 視聴覚教材 ワークシート など	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の食事の問題点について知る。 ・五大栄養素とそれらを多く含む食品について、講義や実習を通して理解する。 ・食品の表示について知り、加工食品を利用する場合に気をつけたいことを考える。 ・調理に関する基礎的な知識と技術を身につける。 	32	授業の取り組み (行動の様子) ワークシート (記述の確認) a, b, c 定期考査 (解答の確認) a, b

計 70 時間 (50 分授業)

6 課題・提出物等

- ・単元ごとに1つ以上のワークを設定しています。
- ・実習は、さまざまな面で安全が第一です。十分に気を付け、しかるべき身だしなみで、担当者の指示に従ってしっかりと取り組みましょう。
- ・ファイルの提出があります。毎時間ワークシートを記入し、整理してファイルにことじましょう。

7 担当者からの一言

授業として学習する家庭科は、専門的な分野に進まないかぎり高校が最後になります。高校卒業後は、家庭科の学習内容を毎日実践することになります。そのために必要な知識や技術を獲得して、自分や家族の生活をより充実させることを目指しましょう。小・中学校で学んできた内容よりも一歩踏み込んだ学習になりますので、難しいと感じる場面もあると思います。そんな時に、仲間と話し合い、助け合い、問題を解決していく授業こそが家庭科です。日々の暮らしに起こる小さな気づきが、家庭科の学びのチャンスです。頑張りましょう！

(担当： 星野 千春)

